ISSN 0385−9517

史料報

第 66 号
平成9年3月

『総覧』から『目録』へ

―「山梨県下市町村役場文書目録」その一の編集を終えて―

鈴江英一

一、「一人一サツ（冊）主義」

史料館では、所蔵史料目録を年二冊刊行することが恒例となっている。この編集・刊行は物騒にも「一人一サツ（冊）主義」とよばれ、教官の一人が順番に目録一冊を担当して仕上げるという仕組みである。今年度も二人の教官、私のほかは森安彦館長が目録第六四集・第六五集をそれぞれ担当することとなった。

収録史料の選定から、すでに仮目録があるとはいえ目録の採取、編成、目録本文と解題原稿執筆、さらに校正にいたるまで、一人の教官で―臨時職員の補助はあるが―すべて判断し実行するというのがこの方式である。

二、『総覧』効果

ところで、当館では昨年三月『史料館収蔵史料総覧』を刊行した。『総覧』は、史料館の全所蔵・寄託史料、マイクロ史料五二九件の概要を収録し紹介したもので、当館の史料検索システム構築のうえでひとつの画期をなす試みであった。このうち、今回、私が目録第六四集の収録対象として選んだのは山梨県巨摩郡地方の一〇文書群である。題して「山梨県下市町村役場文書目録」その一とした。次の通りである。

河原部村文書、韮崎市役所文書、龍岡村文書、増富村役場文書、飯野村役場文書、在家塚村西野村今諏訪村組合役場文書、源村役場文書、百田村役場文書、鰍沢村文書、五開村役場文書

これらの地域は、現在では韮崎市、中巨摩郡須玉町、白根町、南巨摩郡鰍沢町に属している。一〇文書群の数量は、全部で一六三九点である。そう多くはないが、合綴された史料、袋入り史料を一点と数えると一八二三点にのぼる。各文書群の数量も大は飯野村の五〇五点から、小は龍岡村のわずか一点までさまざまである。各文書群のうち、飯野村や増富村をはじめ近世史料が相当の量を占めているが、いずれも近代の戸長役場、町村役場に引き継がれ、さらに近代の文書と合わせられて累積したものである。そして戦後、一九五五年前後の町村大合併期以降に廃棄、流出したと推定される。

その後、これらの史料は、一九六六～六七年に古書店を経由して史料館が購入した。当時、「山梨県中巨摩郡諸村役場書類」などと、多くは郡単位にまとめられ九文書群として数えられていた。ところが『総覧』編集に際し複雑な市町村の合併や分村の経過を調査し、文書群の成立と構成を分析した結果、これらは二五文書群とすべきことが明らかとなった。本目録編集の契機となり、作業の前提となったのは、この『総覧』の編集であった。〈『総覧』から『目録』へ〉という経過をたどったわけで、『総覧』効果のひとつであろう。

三、『山梨県下』文書群選択の意図

さて、『総覧』には五二九件の文書群を収録したと述べたが、このうち原本の所蔵・寄託史料は四一一件である。史料館の収蔵史料といえば近世史料のみと思われがちであるが、意外と近代の史料は少なくない。すでに『目録』第一七集として愛知県庁文書・群馬県庁文書の分が刊行されているが、原本史料のうち文書群の出所を近代の県庁・郡役所・市町村役場などとしているのは、『総覧』でも一五道府県六八件に及んでいる。

―目次―

『総覧』から『目録』へ……(1)
特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」……(4)
科研「歴史史料の材質劣化評価への科学発光の応用研究」……(6)
ICA北京大会に参加して……(7)
史料所在調査報告……(9)
平成八年度新収史料紹介……(10)
史料管理学研修会終了者一覧……(11)
受贈図書……(13)
彙報……(14)

近世文書とされているものでも、文書の下限が一八七一年（明治四）の廃藩置県以降に及んでいる文書群があり、これを加えると、原本史料の約四分の一、一〇〇件近くの文書群が近代の役場文書を含んでいる。このうち山梨県の近代文書が二五件と最も多い。

したがって今回、私が近代役場文書を目録の対象としたのは、当館の収蔵史料の構成からもそう特異なことではない。山梨県下の役場文書を『総覧』で担当したことが、選択の直接の動機であるが、近代地方自治体制度を研究対象としてきた者としては自然な選択ではあった。

ただし、山梨県の文書に限らないが、当館の近代役場文書というのは、個々には多量のものではない。多くて数百点で、一文書群では一冊の目録とするには足りない量である。また文書群を構成する史料も近代役場文書の主要な部分かというと、必ずしもそうではない。各文書群には収蔵史料に偏りがあった。当初、山梨県巨摩郡の全文書群を集合すれば、お互いの欠を補いあって、全体で近代初頭の役場文書の総体がほの見えてくるのではないかと期待したが、残念ながらこのもくろみもはずれた。一〇文書群を糾合しても、山梨県の全文書群を集めても、役場文書の典型的な姿を描き出すことはできなかった。

各文書群の内容は、やや共通していて、地租改正の時期およびそれ以降の土地・租税関係文書、例えば「地所一筆限取調帳」「地所名寄帳」「地券台帳」などが多数を占めている。同時に含まれている近世史料でも、その主体は「検地帳」「年貢割付状」「年貢勘定帳」など土地や年貢に関するものである。ただ、鰍沢村の布告・布達類のように、限られた時期ではあるが、山梨県下の法令を残し、他の町村文書の欠を補ってくれる史料もないわけではない。

これまで目録担当者の食指が動かなかった役場文書であるが、近世文書に疎い館員がいたため、今回の目録の対象になったといえる。ともあれ時代が新しく、大量とは言えず、格別研究者を刺激しないかもしれず、どのような利用がなされるか分からない、いわばメジャーな史料ではないが目録の公刊がなった。史料所蔵機関には、平等に史料を目録化する使命があると思うからである。

四、目録化の方法

目録に収録された史料がどう利用されるかはひとまず置いて、この目録がとくに目指したことに触れておきたい。目録化の方法、とくに目録編成と記述についてである。それがこの一文の目的であった。

まず第一に、目録編成のことがある。出所の原則を踏まえるならば、出所の組織変遷に即して目録の編成項目を設定することになる。近世の村には組織の変遷は少ないが、近代では町村自体が頻繁に合併、分村しており、戸長役場の編成替え、組合役場の組合せの変化につれて、組織が甚だしく違ったものとなっている。この目録では年次を根拠としてそれに該当する組織を編成項目として、史料を位置づけた。

第二に、この該当する組織、つまりその史料を授受・管理していた機構を「主務者」と定義した。行政文書でよく「主務課」「担当課」などと表記されているものである。年次が複数にわたる場合には、後の年次に存在する組織（〇〇村、〇〇村役場〇〇係など）を主務者とした。

ただし、都道府県文書と違い市町村文書には、主務者決定の根拠となる年次を特定できない簿冊・台帳が相当多い。この場合にはやむなく標題などを手がかりに、簿冊作成時の主務者を作成者と表示して記載した。状物など単独の文書も同様に、差出・宛名を表示することにした。

第三に、この文書群の多くは近世と近代両方の史料を含んでいるので、目録の記述は、両時代に適合する方法、通時的な記述をとることを心がけた。近世の「年貢割付状」のような状物と近代の「地券台帳」とが、一定の原則で記述できるように標題の取り方、年次の捉え方、作成者などを特定する基準を設定した。

第四に、記述事項として史料の標題、史料の主務者・作成者・作成年次などの成立に関する事項（この目録では成立情報と称した）、形態情報、注記（標題等の補足、内容、利用条件）などを設定した。

前述の通り各記述事項は全体として一つのまとまりを持った有機的関係にあるので、それに留意したが、同時に各事項は独立したものとして、混同しないようにした。例えば、簿冊の表紙に記載されている文言は、作成者名（当初の主務者）を含めてすべてを標題として扱った。一方、主務者や作成者、年次の記述に当たっては、標題の記載を参考とはしたが、ただちにこれに置き換えることはしなかった。標題はその簿冊作成

者の編冊の意思を表すものであり、成立情報は目録作成者としての判断を呈示する部分だからである。

第五は、この目録の編集には、パソコンを使用して行った。使用したソフトは「桐Ｖ５」である。また、体裁や検索の便、つまり目で逐いやすいことを考慮した結果、全文左横書きとなった。この点、今後も史料館で議論があることであろう。

五、おわりに

目録第六四集は編集を終えてみれば、当初の計画からしても、しのこしたことがずいぶん多いと自覚している。索引も本集では掲載できず、その二に一括することにした。

なにより私が、山梨県と地租改正と近世史料にいますこし知識があったならば、もっとましな目録になったとは思う。ただ、それでも適切な目録記述の標準化がなされていれば、仮にその史料に対する最善の知識を持たない者であっても、知識獲得への熱意と時間があれば、一定程度の「次善」の目録作成は可能なのではなかろうか。本目録はその可能性を試みたものの一つ、とさせていただきたい。

受贈図書　平成八年度（二）

〔　〕内は寄贈者名（敬称略）ただし、省略されている場合があります。

淡路文化史料館収蔵史料目録　第十一・十二集〔洲本市立淡路文化史料館〕
天理図書館叢書　第42輯〔天理大学附属天理図書館〕
資料調査報告書　第二十二集〔鳥取県立博物館〕
広島市行政資料目録　市政資料編　追録9〔広島市公文書館〕
広島市公文書館所蔵資料目録　第19集
香川県立文書館収蔵文書目録　第1集
愛媛県宇和島市三浦田中家文書目録〔田中家史料保存委員会〕
高知県立図書館蔵郷土資料増加目録　平成六年度
福岡県立図書館所蔵郷土関係雑誌記事索引（稿）一九九五
福岡県公共図書館郷土資料総合目録　追録7　平成7年度版
収蔵品目録　10〔福岡市博物館〕
柳川古文書館史料目録　第8集〔九州歴史資料館分館柳川古文書館〕
熊本関係古文書目録―中世編―〔熊本県〕
日本外交文書昭和期Ⅱ　第二部第一巻〔外務省外交史料館〕
北海道立文書館史料集　第十一集
釧路新書22〔釧路市〕
新旭川市史　第七巻〔旭川市〕
五所川原市史　史料編3　上巻〔五所川原市〕
青森県議会史　自昭和五十四年　至昭和五十七年〔青森県議会〕
盛岡藩雑書　第八巻〔盛岡市教育委員会・盛岡市中央公民館〕
気仙沼市史　Ⅴ　産業編（上）〔気仙沼市〕
鹿角市史史料編　第二十八集〔鹿角市役所〕
比内町史史料編　第十集〔（秋田県）比内町〕
澁江和光日記　第一巻〔秋田県公文書館〕
秋田城跡（平成6年度）〔秋田市教育委員会〕
村山市史（第四巻）〔村山市〕
郷土史料叢書　第二十二輯〔山形県新庄市立図書館〕
寒河江市史編集叢書　第52集〔寒河江市教育委員会〕
白河市史　八　近代・現代〔白河市〕
茨城県史年表〔茨城県立歴史館〕
茨城県史料　中世編Ⅵ〔同右〕
潮来町史〔（茨城県）潮来町役場〕
茨城大学附属図書館郷土史料双書一―（六）
南河内町史（第六巻）〔（栃木県）南河内町〕
新編高崎市史　資料編3〔高崎市〕
大宮市史　別巻一（補遺・年表）〔大宮市〕
まんが大宮の歴史　～夢ひろがるまち大宮～〔同右〕
与野の歴史散歩〔与野市〕
川口市史縮小版〔川口市〕
三郷市史　第六巻　通史編Ⅰ〔三郷市〕
幸手市史　古代・中世資料編〔幸手市教育委員会〕
埼玉県資料叢書8〔埼玉県立文書館〕
所沢市史調査史料34〔所沢市教育委員会〕
鳩ヶ谷市の古文書　第二十集〔鳩ヶ谷市教育委員会〕
伊奈町史資料調査報告書　第十二集〔埼玉県）伊奈町〕
深谷上杉氏史料集〔深谷市役所〕
流山市史　近世資料編Ⅵ〔流山市立博物館〕
鴨川市史　通史編〔鴨川市〕
君津市史　史料編Ⅵ　近代Ⅱ〔君津市〕
佐原市史　資料編　別編一〔佐原市〕
我孫子市史資料　近世篇Ⅲ〔我孫子市教育委員会〕
茂原市立木高橋家文書「御用留」　第四集〔茂原市立図書館〕
茂原の古文書史料集　第二・三集〔同右〕
大田区史　下巻〔東京都大田区〕

特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」

―一九九六年度の研究活動報告―

本誌前号で紹介したように、今年度から特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」がスタートした。研究目的は、記録史料を歴史情報資源として永続的に保存・活用していくための理論と技術を総合的に研究することであるが、最終的には『史料学・史料管理学講座（仮題）』のような研究叢書の刊行をめざしている。研究期間は、当面、五年間を予定している。

第一年度にあたる今年度は、五つの研究部会を設け、三回の研究会を実施した。以下、研究会メンバー、研究課題、今年度研究会の内容の順で簡単に報告する。

なお、本特定研究の『研究レポートNo1』を毎年年度末に作成し関係機関に配布する予定である。今年度の詳しい研究内容については、そちらをご覧いただきたい。

1 一九九六年度研究会メンバー

研究代表者　森安彦（史料館長）

①「記録史料認識論」研究部会

大藤修（東北大、部会長）、石上英一（東大史料編纂所）、冨善一敏（日本学術振興会）、保坂裕興（駿河台大）、保立道久（東大史料編纂所）、廣瀬順皓（駿河台大）、吉田伸之（東大）、吉田裕（一橋大）、中野等（柳川古文書館）、高木俊輔（史料館）、大友一雄（同）

②「評価と収集」研究部会

田中康雄（群馬県文書館、部会長）、岩本雅子（フリーランスライブラリアン）、小風秀雅（お茶の水女子大）、戸島昭（山口県教育委員会）、松尾正人（中央大）、水口政次（東京都公文書館）、鈴江英一（史料館）、渡辺浩一（同）

③「整理と情報化」研究部会

青山英幸（北海道立文書館、部会長）、田良島哲（文化庁）、永田治樹（図書館情報大）、水野保（東京都公文書館）、山崎一郎（山口県文書館）、横山伊徳（東大史料編纂所）、蔵持重裕（滋賀大）、永村真（日本女子大）、山田哲好（史料館）、安藤正人（同）、森本祥子（同）

④「保存と修復」研究部会

稲葉政満（東京芸大、部会長）、小川雄二郎（国連地域開発センター）、木部徹（CAT）、高橋実（茨城県立歴史館）、二宮修治（東京学芸大）、増田勝彦（東京国立文化財研究所）、村田忠繁（元興寺文化財研究所）、青木睦（史料館）、福田千鶴（同）

⑤「文書館と専門職」研究部会

石原一則（神奈川県公文書館、部会長）、アンソニー・ジェンキンズ（琉球大）、井村哲郎（アジア経済研究所）、君塚仁彦（東京学芸大）、倉沢愛子（名古屋大）、吉見義明（中央大）、渡辺佳子（京都府立総合資料館）、富永一也（沖縄県公文書館）、丑木幸男（史料館）

2 各部会の研究課題

研究領域を大きくA記録史料認識論、B記録史料管理論の二つに分け、五つの部会で次のような課題を設定している。但し、これは研究を開始するにあたっての暫定的なものであり、今後の議論によって、より体系化されたものに組み替えられていくだろう。

①「記録史料認識論」研究部会

A．記録史料認識論

A1　情報論、A2　媒体論、A3　様態論、A4　構造論、A5　存在環境論、A6　比較記録史料論

②「評価と収集」研究部会

B1　記録管理論、B2　史料所在把握論、B3　史料の評価と移管論

④「整理と情報化」研究部会

B4　整理記述並びに情報システム論（1　記録史料整理論、2　目録記述・編成論、3　情報システム論）

④「保存と修復」研究部会

B5　保存管理論（1記録史料保存論、2記録媒体論、3環境管理論、4維持保存論、5修復保存論、6記録史料複製論、7保存修復専門職〈コンサバター・レストアラー〉論）

⑤「文書館と専門職」研究部会

B6　利用提供論（1公開制度論、2情報提供論、3展示論、4教育普及論）

B7　文書館論（1文書館発達史論、2文書館の現状と課題、3記録史料管理法制論）

B8　専門職論（1記録史料管理組織論、2アーキビスト養成制度論）

B9　国内・国際協力論（1国内協力論、2国際協力論）

3 一九九六年度研究会

○第1回研究会（一九九六年十月十七日）

①全体会

本特定研究のために史料館が作成した「研究プロジェクト計画書（案）」、とくに各部会の研究課題について、史料館の各部会担当者が構想を報告し、討論を行った。

・「記録史料認識論」の研究課題と方法（高木）

・「評価と収集」の研究課題と方法（鈴江）

・「整理と情報化」の研究課題と方法（山田）

・「保存と修復」の研究課題と方法（青木）

・「文書館と専門職」の研究課題と方法（丑木）

②分科会

各部会に分かれて、今後の研究計画についてグループ討議を行った。

○第2回研究会（一九九七年一月十六日～十七）日

①第1部会「記録史料認識論」

第1部会の研究課題は非常に包括的であり、やや具体性に欠ける側面もあるため、当面、各自がどのようなテーマで取り組むことができるかについて順次報告することになった。今回は以下の五本。

・新たな史料学の課題を求めて（渡辺）

・日記史料について（高木）

・史料の存在状況と編纂（保立）

・村方文書管理史研究についての覚書（冨善）

・記録史料認識論とは何か（大友）

②第2部会「評価と収集」

各種組織体の記録管理の状況について理解することが必要との認識から、部会メンバーが所属する組織体の記録管理の現状報告を行った。

・市（区）町村の記録管理の状況（水口）

・山口県の文書整理・保管・保存事務（戸島）

・都道府県における文書管理―文書管理規定にみる（田中）

・企業における記録管理について（岩本）

・行政文書の管理について―国（文部省）の場合（鈴江）

③第3部会「整理と情報化」

今後の研究計画を練るための基礎作業として、第2回研究会では(1)記録史料の編成と目録記述の現状について、(2)本研究部会の課題の明確化と研究プログラムの策定、の二つのテーマを設定し、(1)については次の二本の報告をもとに討論、(2)は自由討議を行った。

・記録史料の編成と目録記述の現状と課題―日本の場合（青山）

・記録史料の記述とその標準化―国際的動向（安藤）

④第4部会「保存と修復」

第4部会研究課題のうち、記録媒体論、環境管理論について具体的研究を進行させるとともに、今後の研究方針と課題の明確化のために「研究プロジェクト計画（案）」についての討議を行った。研究報告は以下の通り。

・環境基準と制御―温度と相対湿度（稲葉）

・文書館建築設計論―既設文書館の建築と設備（高橋）

・記録媒体の素材・形状などの記述方法について―古代・中世史料の事例（増田）

⑤第5部会「文書館と専門職」

「研究プロジェクト計画書（案）」の第5部会研究課題についての意見、あるいは各所属機関における問題点等について、部会メンバー全員が順次発表することとし、今回は次の六本の報告を得た。

・神奈川県立公文書館の現状と課題（石原）

・沖縄県公文書館の現状と課題（富永）

・行政文書の公開制度について（渡辺）

・文書館類縁機関の専門職制度「改革」の方向性と問題点―博物館学芸員の養成制度及び研修等を中心に（君塚）

・満州関係資料の現状―一九四〇年代を中心に（井村）

・専門職―日本における財政上および人的資源の問題（ジェンキンズ）

○第3回研究会（一九九七年三月七日）

第3回研究会は、第3部会と第4部会の二部会が開催され、次のような報告が行われた。

①第3部会「整理と情報化」

・日本中世記録史料の編成と目録論の現状ならびに課題（永村）

・「国際標準記録史料記述・一般原則」を読む（森本）

②第4部会「保存と修復」

・沖縄県公文書館における保存修復部門の現状（沖縄県公文書館宮城保＝招待）

・近・現代史料の劣化症例と調査事項の研究（木部）

・マイクロウェーブを用いた乾燥技術と殺虫技術について（村田）

（安藤正人）

科学研究費補助金（試験研究：基盤研究Ａ－１）
「歴史史料の材質劣化評価への化学発光の応用研究」

青木　睦

史料館は、これまで史料の科学的保存研究の立ち遅れによって、長期的視野に立った抜本的な保存対策指針が打ち出せずにあった。ようやく近年史料管理学の研究を担当する室の設置に伴い、史料保存科学分野の専門研究者との共同研究の蓄積を得ることができ、また特定研究「収蔵史料の修復・復元方法に関する基礎的研究」によって関連諸分野への人的ネットワークが構築できたのを機に、記録史料保存科学に関する研究への取組みを開始することを考えてきた。今年度（平成八）より文部省科学研究費補助金（試験研究：基盤研究Ａ－１）「歴史史料の材質劣化評価への化学発光の応用研究」の交付を受け、初めて保存科学をテーマにした研究を開始する運びとなった。

本研究は、史料の永続的・耐久的保存を保証するため、史料的・歴史的情報を失うことなく反復的な研究利用に耐える物理的原形（記録された媒体の材質そのものの持つ物理的特性）を保持しているかどうかを評価する方法のひとつとして「化学発光法」の方式を紙質測定の世界に応用し、既存の「化学発光検出機（ケミルミネッセンスアナライザー）」を紙質測定用に改造した史料劣化測定装置を製作する。次に、本装置による測定結果を分析・評価して、最終年次には評価基準を作成し、史料保存利用機関等の保存計画の指針となるよう公表することをめざしている。さらに、史料学と保存科学の研究者が共同研究を行い、研究開発と評価基準の作成に取り組むことを目的としている。

史料の保存において、古代・中世の史料と比較して近世・近代の史料は、その残存量が圧倒的に多いことや紙質・形態が多様であることから、保存の必要性を認められながらも等閑視されてきたのが現状である。近世・近代史料は、これまでも研究利用されてきたが、将来にわたっても科学的に保存利用される体制を目指さなければならない。

しかし、その史料、特に紙の材質は何か、どのように劣化・損傷しているのか、どのくらい劣化・損傷がひどいのか、などの科学的な調査・評価方法は、いまだ確立していない。これまでの史料の物理的原形、言い換えれば劣化・損傷程度の調査方法は、肉眼（虫損・微生物の残存状況、変色度、破損・汚損状況）・感触（手触による耐折強度）・顕微鏡観察およびｐＨ（酸性度）測定によるものであった。ｐＨ（酸性度）測定方法は、紙の劣化原因である酸の残留度から紙の劣化度を推測するには有効ではあるが、史料自体を含水させ微少な影響を残す方法である。さらに、紙の劣化評価JISとしての耐久試験は、破壊的であり、適用することはできない。史料の検査にあたっての原則は、影響を最小限にとどめることであり、非破壊的でなければならない。紙は有機質であるため、無機文化財へ適応された様々な分析手法を駆使することはできない。

近年、塗装加工物・食品等の表面分析を非破壊・非接触で行える分光法がいくつかの方法で開発され、この方法を応用した史料劣化測定装置の試作と測定結果に基づいた評価基準の作成への共同研究を実施できる基盤が整ってきている。

「化学発光法」とは、いくつかある加工物の表面分析を非破壊・非接触で行える分光法の内から選択した検査方法である。酸化や光・熱による化学反応を起こした分子や原子は励起状態になり、反応が終了すると基底状態に戻る。このときエネルギーを放出するが、熱としてだけでなく光のエネルギーとしても放出し、その現象を「化学発光」という。この光を測定することによって、様々な化学変化である劣化を追跡することを可能とする。ここで対象とする紙の劣化現象には酸性化反応が深く関与していること、かつ紙中に多く含まれるリグニンが光により変化を起こしやすいことは周知の事実であり、化学発光法は、その化学反応、劣化を測定・評価することのできる方法として、応用化の用途を明らかにすることは極めて有意義である。

最後にこの方法は、理論的に他の方法に比べ史料の紙質に測定時の負担が少なく、史料保存の立場からは最善の方法と思われる。また、食品等の検査に使用されている既存の機器を紙質測定に応用しようとするもので測定装置の実用化がほぼ間違いのないところが特色と言える。

ICA北京大会に参加して

1．ICA北京大会の概要

昨年九月二日から七日の六日間の日程で、第一三回ICA（国際文書館評議会）大会が、中国・北京の国際会議センターで開催された。この大会は四年に一度、世界中のアーキビストが集う国際大会で、アジア地区では初めての開催であった。参加は世界一三〇か国から二六六二名で、日本からは全史料協関係二〇名、企業史料協二〇名の四〇名が参加した。また大会開始の一週間前からプレセミナー、プレシンポジウムも開催（後述2、3参照）された。

九月二日夕刻の開会式では、最初に李鵬首相が演説した。開会三〇分前に会場のトイレに入ろうとしたが、物々しい警備で用を果たせなかった理由がわかった。九月三日、四日、六日、七日は午前中に全体会で研究報告が行われ、基調演説二本のほか、主報告四本、補足報告一七本、計二一本の報告が行なわれた。報告内容は、急速な情報化時代に対応するため、各国で取り組んでいる記録史料の電子化、あるいはネットワークを通じて如何に積極的に情報を発信するか、といったテーマが多かった。また総会も三回行われ、本大会最後に、①各種文書館や類縁組織との国際協力、②武力紛争、政治・経済危機、自然災害や人為災害からの記録遺産の保護、③文書館史料の記述に関する国際標準、④アーキビストの教育と育成、⑤ICAの機構、の諸点について決議と勧告がなされた。また三日からは文書管理と事務用品の企業展示会、中国各地の档案局・档案館の展示、ICA活動展示、各国文書館出版物展示などが行われ、いずれも多くの見学者が訪れていた。さらに晩餐会や見学プログラムも盛り沢山であった。九月二日夕刻の開会式に続いて行れた北京市主催レセプションの会場は、国際会議センター近くの中華民族園の中央広場で、世界中のアーキビストの歓声につつまれた。空腹のせいかあっという間に食物がなくなったらしい。幸い筆者はこれに参加せず、北京の友人と北京ダックを十分に腹に納めたので、仲間から非難囂々であった。

五日は会議参加者および同伴者のための万里の長城と明の一三陵見学ツアーであった。約四〇台の大型見学バスがパトカーに先導されて出発。沿道には交通整理のための警官が立ち並び、バスが通過するまで交通は遮断されたままで、市民に大変な迷惑をかけることになった。

九月六日の中国国家档案局主催の晩餐会は、会議場前の広場で盛大に催された。生演奏をバックにオペラ歌手が登場し、日本の歌を最初にその歌唱力を披露し、食事も盛りだくさん、ダンスで大いに盛り上がった。

九月七日夕刻の閉会式では、カナダ国立文書館長のジャン＝ピエール・ワロー氏から中国国家档案局長王剛氏（ワン・ガン）へとICA会長の交替が行われ、二〇〇〇年に予定されている第一四回ICA大会はスペインが招致し、セビリアで開催されることになり、そこでの再会を約束して大会を閉じた。

心残りがひとつ。大会終了後は一〇コースの中国国内見学オプショナルツアーが準備され、是非参加したいコースがあったが、事情によりどうしても参加できなかったことである。またとないチャンスだったので、多くはない後ろ髪を引かれる思いで北京を後にした。

最後に、アジアで最初の大会を無事成功裡に運営していただいた、中国国家档案局及び大会組織委員会のご尽力に深甚なる謝意を表したい。

（文責　山田哲好）

2　第一三回ICA世界大会

（北京）**プレセミナー**　テーマ「記録史料の保存 Conservation－古代から現在まで：伝統から最先端へ－」

プレセミナーは、大会開催前の八月二六日～九月一日に北京市の友誼賓館・中国人民大学などを会場として、参加者約五〇名規模で開催された。内容は報告発表と見学が組み込まれたもので、次の通りである。

八月二七日：［発表］安小米－中国人民大学档案学院「中国における記録史料の保存全般 Preservation と伝統的技術－現在と未来－：伝統档案保護技術方法とその発展展望」（論文は郭莉珠共著）、［見学］中国第一歴史档案館（展示・収蔵施設）、皇史宬（明・清朝档案石蔵、石櫃）

八月二八日：［発表］ヘレン・フォード－英国文書館保存部門・ICA保存委員会委員長「記録史料の保存全般 Preservation における現代技術の利用」、［実演］李玉虎－中国陝西省档案保護科学研究所「褪色書写の意外な発見：記録史料における褪色

書写の復元と定着」、[報告] ジャン・ジョーズ－仏 DIGIPRESS 社「センチュリーディスク－コンパクトディスクとデジタル versatile ディスクによる新記録媒体技術基盤」、[見学] 清華大学档案館（音像档案：録音テープ・建築図面・コンピュータ画像入力と目録検索法等）

八月二九日：[発表] イングマル・フロイド－スェーデン・ウプサラ大学・ICA防災委員会委員長「災害時の対応計画」、ルイス・カーディナル－カナダ国立文書館画像音声記録部門・「建築関係の図面と記録の保存全般と管理」、[見学] 北京市城市建設档案館

八月三〇日：[発表] ジョン・バートン－カナダ・オンタリオ州文書館・ICA 保存委員会事務長「害虫防除」

[ビデオ上映]「中国の档案館における害虫防除」、[見学] 中国人民大学档案学院：档案保護技術系専攻の講座にかかわる档案保護技術教育研究室・実験部門（記録档案実験室・科学技術档案実験室・档案保護技術実験室・マイクロ複製実験室・コンピュータ室等）、[実演および機器見学] 紙史料の絹布による両面ラミネーション／虫損史料の裏打ち技術／でんぷん溶液による癒着史料の剝離／リーフキャステング機／強制劣化試験機・全天候型劣化促進試験器（ドイツ製）／医療用浄化作業台／電子紙質厚度計等

八月三一日：[発表] ペーター・デュセック－オーストリア・テレビアーカイブズ・ICA 画像音声史料委員会委員長「画像音声史料の保存全般」

九月一日：[見学] 通県档案館

セミナー内容は、来る世紀のアーカイブズにおける保存を見据えた現状と展望が述べられ、国際的な保存修復の水準を確認できる有意義な機会が提供されたものであった。

（青木　睦）

3．「第8回アーキビスト教育国際シンポジウム」

大会開会式の前日（九月一日）と当日（九月二日）の午前、専門職教育養成部会（SAE）と中国人民大学档案学院の共催による「第8回アーキビスト教育国際シンポジウム」が、中国人民大学図書館講堂と国際会議場とで開かれた。

「アーキビスト教育国際シンポジウム」は一九八八年のICAパリ大会以来毎年開催されており、各国のアーキビスト養成学校教員や記録史料学者にとって極めて重要な研究集会になっている。今回の第8回シンポジウムは、中国におけるアーキビスト教育のセンターである中国人民大学档案学院の若手教官が実行委員会を組織して準備にあたった。委員長は馮恵玲教授。数年前、日本に一年余り滞在され、私にとってはそれ以来の親しい友人である。

さて、シンポジウムは百名を越す参加者（うち中国人約七十人、外国人約三十人）を得て、大変盛況であった。テーマは、『アーキビスト教育における遠隔教育』DISTANCE EDUCATION IN ARCHIVAL EDUCATION と『アーキビスト教育における国際協力』INTERNATIONAL EXCHANGE AND COOPERATION IN ARCHIVAL EDUCATION のふたつ。前者はSAEの年次計画に基づいたもので、ラジオやテレビ、さらには通信衛星やインターネットなどを活用した通信教育まで、さまざまな「遠隔教育」の試みや今後の課題が話し合われた。後者のテーマはとくに中国側の要望で入れられたもので、アーキビスト教育を進めるにあたって、今後、二国間あるいは多国間の協力を積極的に進めていく必要があることを議論した。

報告者と報告題は次の通り。

(1)第一テーマ『アーキビスト教育における遠隔教育』

・基調報告＝カレン・アンダーソン（オーストラリア、エディス・コーワン大学）

・第1報告＝蘇玉文（中国国家档案局教育処）「中国でのラジオ・テレビを利用したアーキビスト教育」

・第2報告＝宮暁東（中国人民大学档案学院）「中国アーキビスト養成における高等通信教育と試験制度」

・第3報告＝デビッド・グレイシー（テキサス大学、米国）「米国におけるアーキビストの遠隔教育」

・第3報告＝エリザベス・シェファード（ロンドン大学、英国）「英国における遠隔教育の経験から」

(2)第二テーマ『アーキビスト教育における国際協力』

・報告者＝ローラ・ミラー（英国）、馮恵玲（中国）、ポール・ルネ・バザン（フランス）、テオ・トマセン（オランダ）、Yao Leye（中国）

次回の「アーキビスト教育国際シンポジウム」は一年おいて一九九八年秋、スペインで開かれる予定である。

（安藤正人）

史料所在調査報告

飛騨国大野郡

高山町会所・戸長役場文書

――その四――

高山市郷土館蔵

一九九六（平成七）年一二月一〇日から一三日までの四日間、岐阜県高山市上一之町七五番地高山市郷土館において、高山町会所・戸長役場文書（仮称）の第四回調査を実施した。参加者は、郷土館からの谷畠博之氏・政井陽子氏、当館からの高木俊輔・丑木幸男・山田哲好・安藤正人・大友一雄・青木睦・渡辺浩一に加え、冨善一敏氏（日本学術振興会特別研究員）・山崎圭氏（名古屋文理短大）・金行信輔氏（東京大学大学院）・小林信也氏（同）・笠原綾氏（学習院大学大学院）・渋谷葉子氏（同）の計一三名であった（一九九七年一月にも基盤研究A(1)により調査を実施しており参加人数・調査成果は二度の調査を含む）。

今回は三六箱の史料を整理した。なお、そのうちの一五箱は、一九九六年度に高山市制記念館から移管され、調査対象としている文書群に加えられたものである。

以下、今回調査の概要を紹介したい。

箱一〇四には、明治初年の町組単位の町割図があり、これを高山の全体図に落とすことにより、町組という社会集団の空間的把握が可能となるであろう。

箱一〇六には、明治四・五年の屋敷質入貸金出入の嘆願書・質地証文写・済口証文のセットが多数ある。

箱一〇七には、煮売り茶屋取締、遊女規制、薬種仲間統制、絞油株・生糸などの関係史料があり、それぞれの営業の実態が判明するほか、油が美濃から移入されるに際しての口留番所の史料もあった。

箱一〇八も前の箱に引き続き諸営業関係の史料で、米銭相場、諸色値段、紺屋・菓子屋仲間などの文書がある。箱一〇九も引き続き諸営業関係で、酒造・絞油・牛方稼・荷問屋取立、諸色引下不励行者詫証文などがある。

箱一一二は、異国船対策・寺社造営のための上納金に関する史料、通用停止金請印帳三三冊揃い、商法局関係といった文書。箱一一三は、郡代交代・郡上藩士来訪など武士への賄い関係の史料である。慶応四年の郡上藩家臣の来訪に際しては、町組頭から賄方が任命され、高山別院とその塔頭に家臣を分宿させ、旧家からそこへ屏風を持参するなど接待の具体的様相がわかり興味深い。

箱一一四には、天保―嘉永期の町方への施行米関係の帳簿、窮民御救仕法といった文書があり、この時期の都市高山における階層間矛盾とそれへの対処の様相を明らかにすることが可能である。

箱一一八には、土地譲渡証文、貼訴・捨訴を初めとする梅村騒動関係の文書、人別米調べ、調練関係、武器取調など、多様な文書が入っている。貼訴・捨訴は文字もたどたどしく表現も稚拙な分、民衆世界での文書の意味を考察する手がかりになりそうである。箱一一九の内容も統一性がないが、①金森時代侍屋敷跡地開発改の帳簿（享保九年）、②組頭印鑑帳、③御教諭書写（天保一一年）といった史料がある。①では貼紙によって所持者の変遷が明治初年まで跡づけられる貴重な史料である。②には町組頭の就任年代が記されており、近世後期の町組頭基礎データとなる。

近代文書では、箱一四六が高山町日誌、箱一四七と一四八が高山町役場戸籍取調書、箱一四九・一五〇が加籍除籍管内移動の史料、箱一五一が戸籍関係、箱一五二が土地関係、箱一五三・一五四が丈量野取帳、箱一五五から一五八が土地台帳、箱一五九・一六〇が建物台帳、箱一六一が鉄道、箱一六二が軍事、箱一六三が学校、箱一六四が新築関係書類、箱一六五が徽章といった内容であった。

最後に新出の三之町の春慶塗箪笥について述べる。この箪笥には、すでに郷土館に収蔵されている三つの皮箪笥、一之町の桐箪笥・長持と共通の物品番号ラベル（明治期）が貼付されていること、また高山市水道局の廃棄品として発見されたことを勘案すると、調査中の高山町会所・戸長役場文書の明治初年段階の保管用器の一つであることは間違いない。モノとしても一之町の桐箪笥と細部は異なるもののほとんど同型である。

以上のように、整理が進展して興味深い文書が続出しているほか、保管用器についての理解も深まっている。本文書群の階層構造を考察する素材が整いつつあるといえよう。

（渡辺浩一）

平成八年度　新収史料紹介

Ⓕはマイクロフィルムによる収集を示す。

山口県都濃郡末武
中村堀家文書

堀家は堀右衛門督藤原秀治二男堀英之助忠営を祖とし、堀平右衛門忠久の子の代に「上堀」「中堀」「下堀」の三家に分かれた。本文書群の出所は中堀家で、屋号を中和堂という。

堀家に現存する文書によると、四代伊兵衛（文政十二年卒）が末武中村畔頭を三一年間、末武下村庄屋を五年間つとめた功績により、身柄一代名字御免の免許状を受けている。五代吉郎左衛門（弘化元年卒）も末武下村庄屋を長くつとめて名字ならびに永代帯刀御免。七代吉郎右衛門（明治四年卒）の代には、庄屋、御恵米方、大庄屋などをつとめた功などにより永代大庄屋格を約束されている。明治期に入り、八代堀新治（大正五年卒）は末武上村副戸長、戸長をつとめている。

堀家は当地方有数の地主であったと見られるが、家業経営の詳細はわかっていない。現当主堀泰典氏のお話によると、一時期塩田経営に携わったこともあるという。

本文書群は文化四年から大正元年までの文書二〇六点からなり、明治期の私的な経営帳簿が中心である。主なものに「萬覚帳」（明治九～四四年、三二冊）、「萬控帳」（明治四二～四三年、一一冊）、「大福帳」（元治二～明治二五年、八冊）、「田畠春定帳」（明治十～二六年、一六冊）などがある。

江戸期の村方文書はごく少数しか含まれていないが、「末武邨田畠御物成春定名寄横帳写」（慶応二年）、「下札」（慶応四―安政六年、三冊）などがある。ほかに、文久二～三年に堀吉郎右衛門が年番大庄屋をつとめた時の大庄屋役方文書と、明治初年に堀新治が末武上村副戸長・戸長を勤めたときの戸長所文書が、それぞれひとかたまりずつ残存している。

（付記）本文書群は、表具材料としていったん廃棄され一部は東京に流出していたが、関係者のご好意によって消滅を免れ、平成七年度に一括して当館に寄贈された。本来ならば史料は現地保存が望ましいが、右記のような事情により、特別なケースとして当館が寄贈を受け入れることにした。なお寄贈にあたっては、山本精一氏、堀泰典氏、鴫原榮一氏に大変お世話になった。記して心より御礼申し上げる次第である。

摂津国大坂塩町
小橋屋平井家文書

本文書群は、昭和二六年に当館が受け入れた同名の文書群と出所を同一にする文書群である。今年度、古書店に出ていたものを、所蔵文書と同一の出所であることから購入に踏み切ったものである。点数は全部で一三点であるが、このうちの五点は昭和一〇年に本文書が古書店から売却されたときの関係文書である（史料番号七）。伝来経緯の手がかりとなろう。

本文書群の目玉は、文政八年の呉服店大絵図である（史料番号六）。約二×四・五メートルという大型絵図であり、経営組織が空間として把握できる。二階の間取りも伴っている。そのほかは、一八世紀後半の五冊の経営帳簿である。そのうちの「覚」という表題を持つ二冊は、「元方」という経営全体を統括する組織の勘定帳簿であり、三ケ月ごとに決算が行われていることがわかる（史料番号一・二）。この二冊により宝暦一二年から安永三年まで一三年間の経営動向が明らかになる。既蔵の小橋屋文書と併せて検討すれば、多くの研究成果がもたらされるであろう。

Ⓕ　飛騨国大野郡高山町
高山町会所・戸長役場文書

昨年度に引き続き戸長役場文書を撮影して収集した。明治六年までの戸長役場史料は近世史料とともに明治十一年に作成した「旧高山町諸帳簿明細記」に記載され、独特の主題別分類に従って保存されている。その後、戸長役場史料と町役場史料を一括して、大正一三年、一四年に役場事務文書に精通した成瀬信之助（明治三七年九月、高山町雇、同年一〇月書記、四四年～大正一二年助役）が、町の委託を受けて評価選別をして整理した。その結果を明治二二年から三二年に作成された四種類の目録に「史料」「廃棄」などと注記した。

今年度は明治五年「諸規則御条例」などの規則、明治二〇年「高山町地租台帳」「地租取立帳」などの租税、明治六年「長副給料割合取立帳」などの町入用、明治五年～一六年「戸籍関係史料」などの戸籍、明治一六年「元老院議官関口隆吉君へ上申書」、明治一一年、二〇年、二二年の「地券」を撮影した。

（現蔵者＝岐阜県高山市上一之町七五番地、高山市郷土館、撮影点数一一六点、一三リール、七三四二コマ）

長野県東筑摩郡
麻績村葦沢家文書

旧信濃国筑摩郡麻績町村の葦沢家は、村役人の家柄で、弘化四年に名主になり、明治維新後は小学校の教師、明治二十年代に薬種商、また昭和期まで雑貨商を営んだ。

収集した葦沢家日記は、横半折帳に日々の天候、出来事を克明に記録したもので、葦沢家の私的日記として書き継がれたものである。嘉永六年から昭和二四年まで九二冊が現存しており、途中文久一、二年を欠く。このほか葦沢林平の雑記といえる「日誌」が明治十二年より同二一年まで十冊ある。今年度は、嘉永六年より明治三三年までの四三冊と、日誌十一冊を収集した。

これらの日記類は、葦沢家に伝存してきた文書類とともに一括して麻績村誌編纂室に寄託されていたが、現在は麻績村中央公民館に所蔵されている。葦沢家文書については、「葦沢家［加賀屋］文書目録」その一、二、三、四（昭和五六～五七年）として麻績村村誌編纂会から孔版で刊行されている。

（現蔵者＝長野県東筑摩郡麻績村役場、撮影収録点数十一リール、五、九九三コマ）

Ⓕ 信濃国埴科郡
下戸倉村坂井家文書

坂井家文書のマイクロフィルムによる収集は、平成六年・七年度に引きつづき本年度で三回目である。これまでの前二回が主として冊子型文書を中心に、天和三年（一六八三）から安政四年（一七七七）までの五〇三点を収録したのに対し、今回も、冊子型文書の安政四年から明治二九年（一八九六）までの三五一点の文書を収録した。坂井家文書の概要については、『史料館報』第六二号（一九九五年）・同第六四号（一九九六年）に掲載した。

なお、坂井家文書は、すでに史料所在調査を一九八四年・八五年の二か年にわたり実施し、その概要については、『史料館報』第四二号（一九八五年）・第四四号（一九八六年）にそれぞれ掲載した。

また、坂井家文書については、『信濃国埴科郡下戸倉村名主坂井家文書目録』（吉川弘文館販売、一九九五年）が刊行され、その全体像の把握ができるようになった。

（現蔵書＝長野県埴科郡戸倉町一八五五ノ一、坂井永一氏。撮影収録点数一〇リール、五三四五コマ）

1996年度（通算第42回）史料管理学研修会修了者一覧

〔長期研修課程〕

名前	レポート題目
大島千波（学習院大学大学院）	古代過所制度に関する史料的考察
大田彩（学習院大学大学院）	殿上日記について
加藤千晶（学習院大学大学院）	近代の行政文書－神奈川県高座郡座間村の村役場文書の場合－
斉藤千景（学習院大学大学院）	学習院大学図書館所蔵「旧丹鶴城蔵書幕府書類」について
眞邊美佐（お茶の水女子大学大学院）	高知県における史料管理の現状と課題－高知市立自由民権記念館をたずねて
青木祐一（千葉大学大学院）	（愛媛県宇和島市）「三浦田中家文書調査の現状とその問題点」
袖吉正樹（金沢市立玉川図書館）	金沢町における相続史料の形式とその管理について－高道新町組合御用箱史料を中心に－
富田裕美（九州東海大学付属熊本図書館）	東京大学法学部保管・東京地方裁判所民事判決原本（戦前期）の調査について
仲谷夏代子（世田谷文学館）	世田谷文学館の保存環境と保存方法について
西向宏介（広島県立文書館）	商家文書における経営帳簿組織の復元と目録編成－備後尾道橋本家文書を事例として－
川島慶子（日本女子大学大学院）	藩校記録局の業務に関する一考察－細川藩時習館を事例として－
高瀬亜津子（東京芸術大学大学院）	紙資料を収納した保存箱内の温・湿度環境測定
善如寺朋子（昭和女子大学大学院）	下張文書の解体作業と保存について
柴田容子（京都府立総合資料館）	史料管理学における arrangement とは何か
風間康紀（中央大学広報部大学史編纂課）	中央大学広報部大学史編纂課における資料の保存と管理について
佐藤明俊（牛久市史編さん分室）	公文書館法考
福島利夫（京都大学総合人間学部）	文書館の「普及」は有り得るのか
南部みどり（東京大学大学院）	地域住民を主体とする地域史研究の為の文化施設をめざして－文書館・博物館・図書館－
及川修（岩手大学大学院）	日本史史料全文テキストデータベース構築における問題点とその解決方法
吉沢一成（大正大学大学院）	『遊行日鑑』の史料学的一考察

〔短期研修課程〕

名　前	レポート題目
神田竜也（愛知教育大学大学院）	史料利用保存機関と学校教育現場との連携に関しての一考察
花岡公貴（上越市教育委員会）	上越市史編さん室における史料整理の試み－越後国頚城郡大鹿新田村山田家文書の整理とその構造－
木本匡紀（和歌山県立文書館）	和歌山県立文書館における普及・啓発活動について
伊藤信明（和歌山県立文書館）	文書館とは何なのだろう－研修・実務・実習を通じて考えたこと－
野崎智裕（三重県生活文化部）	日本中世の史料管理と『公文式』－『三重県史』の編さんから－
川俣正英（茨城県立歴史館）	常陸国筑波郡上菅間村飯村家文書の構造分析
高橋孝二（府中市役所）	市史編さんの成果と課題
月本直樹（徳島県立文書館）	徳島県立文書館における史料整理方法について
江田郁夫（栃木県立文書館）	小宅文漢編『下野古文書集』について－近世文人の史料編纂－
三重野誠（大分県立先哲史料館）	先哲史料館における史料整理について－史料基本カードと先哲史料管理システム－
鈴木秀幸（明治大学）	「大学史」の広がり
伊能秀明（明治大学刑事博物館）	明治大学刑事博物館の資料管理について－その創設から再興・発展期の歩みおよび再編成への課題－
澤博勝（福井県立博物館）	在村寺院・神社所蔵文書と「組織体」としての近世在村寺社－在村寺社所蔵文書の史料論的考察に向けての準備ノート－
別府節子（一橋大学附属図書館）	一橋大学附属図書館における古文書史料等の保存の現状－貴重書収蔵エリア（仮）の新設にむけて－
田原光泰（渋谷区教育委員会）	文書館と博物館－複合館問題について－
胡光（香川県教育委員会）	史料とはなにか－博物館史料論の提唱－
高橋菜奈子（新潟大学附属図書館）	史料整理とコンピューター新潟大学附属図書館における文書目録・画像データベースの現状と課題－
村上晋司（東京大学附属図書館）	ディジタル文書の保存上の問題点について
篠栗伸一（神戸大学附属図書館）	神戸大学附属図書館における古文書整理の今後の課題
池田将章（静岡県教育委員会）	県史編さん事業終了後の新組織にむけての現状と課題－収集資料管理システムを中心に－
森松綾子（愛媛県歴史文化博物館）	史料管理学研修会に参加して
田中慶治（泉佐野市教育委員会）	自治体史編さん事業における人権に関わる史料の公開をめぐって－泉佐野市史の事例を中心に－
小松芳郎（松本市総務部）	のこされた旧村役場文書を考える
福島紀子（松本市総務部）	中世文書の伝来の経緯と史料の活用について－『松本市史』編さんの過程で見えたこと－
村上茂（香川県立文書館）	大矢家文書の整理にあたって
煙山英俊（秋田県公文書館）	秋田県公文書館における近世史料の再整理について
森田（上岡）志乃（高知市立自由民権記念館）	高知市役所における行政文書保管の現状と課題
原久美（活水女子大学図書館）	大学図書館と文書館－業務に関する一考察－
上原孝（琉球大学附属図書館）	文書目録のパソコンによる検索システムについて
三谷昇（群馬県立文書館）	文書館における古文書解読講座の意義と課題
河村克典（山口県文書館）	絵図目録における記載項目の内容と問題点
小林純子（諏訪市博物館）	諏訪市博物館における史料整理の現状と課題
原田和彦（松代藩文化施設管理事務所）	長野県宝「真田家文書」の基礎的考察
川島久美子（福岡県立図書館）	福岡県立図書館における古文書・古記録類の取り扱いの現状と課題
寺尾美保（尚古集成館）	目録再編成のための一考察－尚古集成館所蔵島津家文書を事例として－
伊藤一億（新潟県立文書館）	文書館における教育普及活動について－新潟県立文書館の教育普及啓発事業をとおして－
尾崎晃（千葉県立総南博物館）	千葉県立総南博物館におけるパネル目録の作成について
村上友子（神戸女子大学大学院）	史料管理全般について－史料ネットを実例として－
渡部淳（財土佐山内家宝物資料館）	元禄国絵図・郷帳徴収事業と史料の作成・管理－豊後国絵図元臼杵藩を事例として－
長谷川伸（新潟県庁企画調整部）	中世～近現代の複合文書群における階層構造と原秩序の諸問題－淡路島護国寺文書の整理を終えて－
保延有美（学習院大学史料館）	『学習院大学五十年史』編纂におけるデータ収集について
高橋真文（秋田県立博物館）	秋田県立博物館歴史部門収蔵庫の改善案－資料保存の観点からの考察－
中村敦子（(財)一茶郷土民俗資料館）	信濃町における近世史料の調査・収集と今後の課題
清永安夫（熊本県立図書館）	個人的な文書館構想と図書館の果たす役割について
山口信枝（福岡県地域史研究所）	福岡県採銅所宮座文書の構造と背景－文書とアーキビストの関わり－

受贈図書　平成八年度（三）

〔　〕内は寄贈者名（敬称略）ただし、省略されている場合があります。

北区史　資料編　近世2・現代1〔東京都北区〕
多摩市史　資料編一　考古　古代・中世・資料編二　近世　社会経済・資料編二　近世　文化　寺社・資料編三　近代〔多摩市〕
多摩市史叢書（9）・（10）〔同右〕
八王子市郷土資料館資料シリーズ　第35号〔八王子市郷土資料館〕
東京都古文書集　第十四巻
葛飾区古文書史料集八〔葛飾区郷土と天文の博物館〕
世田谷区史料叢書　第十一巻〔世田谷区立郷土資料館〕
文政のまちのようす　江戸町方書上（四）〔東京都港区立みなと図書館〕
小平市史料書　第六集・第七集〔小平市中央図書館〕
羽村市史料集三〔羽村市郷土博物館〕
高幡山金剛寺文書　上巻〔法政大学〕
江戸東京問屋史料　商事慣例調・諸問屋沿革誌〔東京都公文書館〕
戦争と人びとのくらし〔八王子市郷土資料館〕
資料　東京都の学童疎開〔東京都公文書館〕
民権ブックス9〔町田市立自由民権資料館〕
洗足池　洗足風致協會創立六十周年記念誌〔さくま書店〕
武蔵村山市文化財資料集14〔武蔵村山市立歴史民俗資料館〕
歴史の道調査報告書　第四集〔東京都教育庁〕
世田谷区教育史　通史編〔世田谷区教育委員会〕
小田原市史　別編　城郭〔小田原市〕
寒川町史3〔（神奈川県）寒川町〕
寒川町史調査報告書6〔同右〕
横浜市文化財調査報告書　第二十四輯の一・第二十五輯の一〔横浜市教育委員会〕
横浜の文化財—横浜市文化財総合調査概報（十一）—〔同右〕
横浜の文化財　第三集　横浜市指定・登録文化財編〔同右〕
新版神奈川大和教育史　第一・二巻〔大和市教育委員会〕
長岡市史　通史編上巻〔長岡市〕
吉川町史　第一～三巻〔（新潟県）吉川町〕
近世米作単作地帯の村落社会教育—越後国岩手村佐藤家文書の研究—〔渡辺尚志〕
金沢市史　資料編13　寺社〔金沢市〕
金沢市図書館叢書（一）　金沢町名帳〔金沢市立玉川図書館〕
福井県史　通史編4〔福井県〕
大野市史（第9巻）用留編〔大野市役所〕
福井県議会史　第七巻〔福井県議会事務局〕
丹南史料研究　第三集　鯖江領御物成郷帳〔丹南史料研究会〕
山梨県史資料叢書　村明細帳　山梨郡編〔山梨県〕
飯島町誌　中巻　中世・近世編〔（長野県）飯島町〕
安茂里史〔長野市安茂里史刊行会〕
出来事で綴る里村山村〔小坂順子〕
松本市史　第二巻　歴史編Ⅱ・Ⅲ〔松本市〕
高島藩邸と諏訪氏一族〔浅川清栄〕
各務原市資料調査報告書　第二十号〔各務原市歴史民俗資料館〕
各務原市民の戦時体験〔各務原市教育委員会〕
磐田市史　史料編5　近世追補（2）〔磐田市〕
図説磐田市〔同右〕
小山町史　第五・六巻〔（静岡県）小山町〕
沼津市史編さん調査報告書　第八集〔沼津市教育委員会〕
とよはしの歴史〔豊橋市〕
半田の戦争記録—半田市誌別巻—〔半田市〕
八開村史　資料編一・三〔（愛知県）八開村〕
豊田町誌　資料編　近世編（Ⅲ）〔（愛知県）豊田町〕
幸田町史　資料編2（近代）〔（愛知県）幸田町〕
名古屋市博物館調査研究報告書Ⅲ
新修名古屋市史報告書1・2〔名古屋市総務局〕
宝暦治水御用状留—木曾三川の技術と人間—〔高木家文書宝暦治水史料研究会〕
豊橋市埋蔵文化財調査報告集　第19集・第26～28集〔豊橋市教育委員会〕
四日市市史　第十三巻　史料編近代Ⅲ〔四日市市〕
ふるさと三雲　今と昔〔（三重県）三雲町役場〕
平松楽斎文書19〔津市教育委員会〕
彦根藩史料叢書　侍中田緒帳3〔彦根城博物館〕
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報　第21・26集〔宇治市教育委員会〕
向日市埋蔵文化財調査報告書　第43集〔向日市教育委員会〕
宇治市文化財調査報告　第4冊〔宇治市教育委員会〕
亀岡市文化財調査報告書　第二十四集〔亀岡市教育委員会〕

岸和田市史　第二巻　古代・古世編〔岸和田市〕
新修大阪市史　第9巻〔大阪市〕
岬町の歴史〔(大阪府)岬町〕
大阪市史史料　第四十六輯〔大阪市史編纂所〕
大谷女子大学資料館報告書　第33冊
阪南市埋蔵文化財報告書XIX〔阪南市教育委員会〕
阪南市文化財状況調査報告書II〔同右〕
兵庫県史　史料編　近世四〔兵庫県〕
新修神戸市史　行政編I　市政のしくみ〔神戸市〕
姫路市史　第十五巻中〔姫路市〕
播磨利神城〔城郭談話会〕
淡路洲本城〔同右〕
尼崎地域史事典〔尼崎市立地域研究史料館〕
奈良県大般若経調査報告書二(本文編・資料編1～3)〔奈良県教育委員会〕
九州の寺社シリーズ14〔九州歴史博物館〕
平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告　本文編・図版編〔奈良県教育委員会〕
新修倉敷市史1・8〔倉敷市〕
山口県史　史料編　中世1〔山口県〕
町史ことひら5　絵図・写真編〔(香川県)琴平町〕
福岡県史　近代史料編　八幡製鉄所(一)・自由民権運動〔福岡県〕
小森承之助日記　第二巻〔北九州市立歴史博物館〕
柳川歴史資料集成　第一集〔柳川市〕
佐賀県近世史料　第一編第四巻〔佐賀県立図書館〕
有明町文化財調査報告書　第一集〔(佐賀県)有明町教育委員会〕
任那国と対馬〔李炳銑〕
五味町史資料編(その四)〔(熊本県)五味町教育委員会〕
北浦町史　史料編第二巻〔(宮崎県)北浦町〕
宮崎県文化財調査報告書　第38集〔宮崎県教育委員会〕
国衙・郡衙古寺跡等範囲確認調査概要報告書IV〔同右〕
平成6年度農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書〔同右〕

(以下次号)

彙報

○史料の収集

・摂津国大坂塩町小幡屋平井家文書を古書店より購入した。また、マイクロフィルムにより飛騨国大野郡高山町戸長役場文書、信濃国埴科郡下戸倉村坂井家文書、長野県筑摩郡麻績村葦沢家文書を収集した(うち葦沢家文書は特別研究「近世史料の古文書学的研究」による)。各文書の概要については本号「新収史料紹介」を参照していただきたい。

○史料の所在調査

本年度は、飛騨国大野郡高山町会所・戸長役場文書について実施した。詳細は本号「史料所在調査報告」を参照のこと。

○史料館所蔵史料目録作成のための調査

史料目録六四集作成のため、山梨県韮崎市域ほかを対象に調査を行った。(一月二六日～二九日、鈴江英一)。史料目録六七集作成のため、新潟県長岡市域を対象に調査を行った(三月二七日～二九日、青木　睦)。

○史料保存機関事務連絡および調査

次の機関を対象に実施した。鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立図書館(二月一九日～二一日、薬谷美枝子)、福岡県立図書館・長崎県立長崎図書館(二月二五日～二七日、林宏保)

○評議員会と運営協議員会の開催

一九九六年六月二六日・九月二日・一〇月四日・一二月二〇日・一九九七年二月一八日に運営協議員会が、一九九六年七月一六日・一〇月三〇日・一九九七年二月二七日に評議員会がそれぞれ開催され、教官等人事・管理運営・次年度事業計画について評議ないし協議された。

○内地研究員の受入

日本学術振興会特別研究員　冨善一敏氏

期間は平成八年四月一日～同九年三月三一日まで(平成六年四月から継続)。研究課題「近世・近代期の地域社会と村落行政－文書管理史の視点から－」

○出版物の刊行

1「山梨県下市町村役場文書目録(その一)」を『史料館所蔵史料目録』第六四集として、「武蔵国多摩郡後ケ谷村杉本家文書目録」を同じく第六五集としてそれぞれ刊行した。

2『史料館研究紀要』第二八号を刊行した。内容は次の通りである。

・戸長役場史料論(四・完)　丑木幸男
・将軍の鷹狩と江戸の鳥問屋　大友一雄
・近世都市における宝蔵と史料「管理」－播州三木町を事例として－　渡辺浩一
・「金銭出入覚帳」の性格と内容(一)－武州荏原郡奥沢村原家文書の事例－　森　安彦
・農民日記史料論－「大黒屋日記(年内諸事日記帳)」研究序説－　高木俊輔
・近世後期における村役人制と村運営についてのモノグラフ－信州高島領乙事村における－　冨善一敏
・国際標準記録史料記述(一般原則)適用の試み－諸家文書の場合－　森本祥子

3『史料館報』第六五号および六六号(本号)を刊行。なお次号は本年九月刊行

予定。

4『特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」研究レポートNo1』

5『在英日本史料の所在と現状に関する調査』（平成七・八年度科学研究費補助金（国際学術研究）報告書）

○一九九六年度史料管理学研修会修了証書の授与

所定の教科目を履修し、レポート審査に合格した方々に修了証書を授与した。詳細は本号「一九九六年度史料管理学研修会修了者一覧」を参照。

○館内研究会

［一五五回］一〇月八日

沖縄県公文書館―開館一周年をむかえて

沖縄県公文書館館長　宮城悦二郎

［一五六回］一〇月一四日

史料情報の構築について

史料管理研究室　客員教授　永村　眞

［一五七回］一〇月一五日

史料管理学研修会講義準備報告―官公庁文書の評価と移管　安藤正人

［一五八回］一〇月一七日

特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第一回研究会

［一五九回］一一月二八日

「山梨県下市町村役場文書目録（その一）」第六四集の目録編成について

鈴江英一

「武蔵国多摩郡後ケ谷村杉本家文書目録」第六五集の目録編成について・『史料叢書』1の編成について　森　安彦

［一六〇回］一月一六日

特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第二回研究会

［一六一回］二月一〇日

「歴史史料の材質劣化評価への化学発光の応用研究」第二回研究会

［一六二回］二月一二日

「幕藩領主文書と村方・町方文書群の発生・展開・伝存に関する史料学的研究」第二回研究会

［一六三回］三月七日

特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第三回研究会

［一六四回］三月一〇日

国際学術研究「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」準備研究会

［一六五回］三月一一日

近世村方文書管理史研究についての一考察　冨善一敏

○基盤研究(A)(1)に関する研究会・調査

①「幕藩領主文書と村方・町方文書群の発生・展開・伝存に関する史料学的研究」

・研究会

開催日一九九七年二月一二日、報告は以下の通り。

高山町年寄保管の文書保存容器について　史料館　青木　睦

大名文書と村方文書　―真田家文書を事例として―　一橋大学　渡邊尚志

梅村騒動と郡中惣代　史料館　高木俊輔

・調査

一九九六年一二月九日～一三日、岐阜県高山市郷土館。一九九七年一月二〇日～二四日、前同所。

②「歴史史料の材質劣化評価への化学発光の応用研究」

・研究会

一九九六年六月一八日、研究趣旨報告、化学発光検出機の開発について。

一九九七年二月一〇日、化学発光法の原理と材質劣化評価研究と技術の現状について。

・調査

一九九六年一一月二一日～二三日、丑木幸男・高木俊輔・青木睦。調査対象は東北電子産業㈱仙台本社・東北大学法学部。

○特定研究に関する研究会

「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」に関する研究会を当館で開催した。詳細は本号活動報告を参照のこと。

○長期在外研究

福田千鶴が一九九六年三月二〇日～一九九七年一月一五日、ハーバード大学東アジア言語文化学部（米国）において文部省在外研究員として研修を行った。

○海外出張

文部省科学研究費補助金（国際学術研究）「在英日本史料の所在と現状に関する調査」に基づいて以下のように出張を行った。

A一九九六年六月四日～二三日安藤正人、六月一三日～三〇日渡辺浩一、六月一五日～二九日高木俊輔・大友一雄

B同年九月二二日～一〇月二日森安彦・丑木幸男、九月二二日～一〇月六日安藤正人・神立孝一

C同年一〇月二七日～一一月一〇日鈴江英一・山田哲好・青木睦

D一九九七年三月一二日～二二日丑木幸男・安藤正人・山田哲好・福田千鶴・神立孝一

○海外研修

・青木睦が一九九六年八月二六日から九月一日まで、第一三回ICA（国際文書館評議会）世界大会（中国北京大会）のプレセミナー「記録史料の保存―古代から現在まで：伝統から最先端へ」に出席し、中国北京市の友誼賓店・中国人民大学等において研修を行った。

・安藤正人・山田哲好が一九九六年九月

一日～八日まで、第一三回ＩＣＡ（国際文書館評議会）世界大会へ参加し、中国北京市において研修を行った。

・安藤正人が一九九六年一二月九日～二九日まで日本学術振興会東南アジア諸国派遣事業による研究「第二次世界大戦時及び戦後の日本植民地及び占領地における記録史料の取り扱いについて」により、マレーシア国立文書館（クアラルンプール）、サバ州立文書館（コタキタバル）で研修を行った。

○博士（文学）学位の授与

史料館助手福田千鶴は、学位請求論文「幕藩制の確立と御家騒動に関する研究」で九州大学より、平成九年三月二七日付で博士（文学）の学位を授与された。

○史料館研究・教育活動一覧（一九九六年発表のもの。ただし、大学出講は一九九六年度）

①森　安彦

・監修・共編著『世田谷区教育史　通史編』（世田谷区教育委員会、三月）

・共編著『世田谷区史料叢書』第一一巻（世田谷区教育委員会、三月）

・共編著『里正日誌』第一〇巻（東大和市教育委員会、三月）

・監修・共編著『古文書を読む―解読実践コース』（編集三省堂、日本放送協会学園発行、一九九六年度版、四月）

・編著『村の世界　村の生活』（木村礎著作集Ⅶ、名著出版、九月）

・共著『幕藩制支配と地域動向』（文献出版、一〇月）

・論文「『御用留』の性格と内容（八・完）―武州荏原郡上野毛村『御用留』の検討―」（『史料館研究紀要』第二七号、三月）

・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）

・報告「国文学研究資料館史料館の活動―平成七年度―」（『日本歴史学協会年報』第一一号、三月）

・寄稿「『千葉県の文書館』の創刊によせて」（『千葉県の文書館』創刊号、千葉県文書館、三月）

・寄稿「文字社会のひろがりと意識変化」（史料館収蔵史料展パンフレット、五月）

・寄稿「古島敏雄先生と国立史料館」（『わたしたちに刻まれた歴史―追想の古島敏雄・百合子先生―』八月）

・講演「近世私文書の世界」（第三回信州近世史セミナー、信濃史学会・長野県立歴史館共催、同館、二月一八日）

・講演「『里正日誌』から読む村の生活―幕末維新期の村落動向―」（品川古文書研究会主催、荏原第四中学校、三月二七日）

・報告「国立史料館『史料管理学研修会』の現状と課題」（「史料学・史料館員」問題シンポジュウム、日本歴史学協会主催、早稲田大学文学部第一会議室、四月二〇日）

・講演「近世私文書の世界」（国文学研究資料館、平成八年度春期講演会、五月一七日）

・講義「国立史料館における事業・研究の現状と課題」（東京都公文書館講習会、東京都公文書館、九月二日）

・公開講演「近世文書の世界―公文書と私文書―」（第二九回日本古文書学会大会、立命館大学、一〇月一二日）

・講義「古文書の収集・整理」（国立公文書館主催、第九回公文書館等職員研修会、国立公文書館、一一月二二日）

・座談会「戦後五〇年史料の公開と保存」（笹山晴生・狩野久・永原慶二・木村礎・伊藤隆・有馬学・瀬野精一郎・山田邦明・森安彦、『日本歴史』第五七七号、創刊五〇周年記念、吉川弘文館、一九九六年六月号）

②高木俊輔

・著書『伊那県時代』飯島陣屋ブックレット（長野県上伊那郡飯島町、三月）

・共編『松本藩の史料』（『松本市史近世部門調査研究報告集』第3集　松本市、三月）

・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）

・講義「夜明け前の世界―「大黒屋日記」を読む―」（国文学研究資料館　原典資料講読セミナー、八月）

・講演「最近の「偽官軍」事件研究をめぐって」（長野県下諏訪町　四月三日）

・講演「近世の農民日記」（国文学研究資料館春期特別展示・講演会五月十七日）

・講演「近世史の見方について」（川越市大東公民館　十月十九日）

・大学出講　立正大学文学部　日本史特講

③山田哲好

・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）

・講演「コンピュータによる史料管理と閲覧サービス」（茨城県立歴史館　歴史史料のデータベース化に関する研修会　二月二一日）

・講演「史料管理の理論と実際」（徳島県立文書館文書資料保存研修会　八月一〇日）

・講演「情報の管理」（埼玉県地域史料保存活用連絡協議会実務研究会　九月二七日）

・大学出講　千葉大学文学部　文書館学Ⅱ

・大学出講　立正大学　博物館学実習（記録史料の調査・収集・整理・保存管理と利用）

④福田千鶴

・目録『史料館所蔵目録第63集・山城国

諸家文書目録その（一）』（三月）
・論文「幕藩制的秩序の形成―藩政確立の諸問題―」（山本博文編『新しい近世史』第一巻、国家と秩序、新人物往来社、三月）
・論評「回顧と展望―史料論」（『史学雑誌』第一〇五編第五号、五月）
・史料紹介「福岡藩前期の京都・大坂蔵屋敷及び算用所関係史料の紹介―九州大学文学部国史学研究室所蔵「京大坂御蔵屋敷御定書并御算用易証拠」―」（『福岡県地域史研究』14号、福岡県地域史研究所、七月）
・分担執筆　五味文彦編『日本史重要人物101』（新書館、七月）
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）
・長期在外研究「米国における日本関係史料の存在形態に関する調査・研究」（96年3月20日～97年1月15日、ハーバード大学東アジア言語文化学部）

⑤鈴江英一
・論文「文書館前史」（全史料協『日本の文書館運動』、三月）
・論文「近現代史料整理論の状況―近現代史料整理論ノート1」（『史料館研究紀要』二七号、三月）
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）
・報告要旨「函館洋教事件　一八七二～一八七五年」（『プロテスタント史研究会会報』六〇号、四月）
・論文「戦時下キリスト教史の叙述について―『新札幌市史』のためのノート」（『札幌の歴史』三一号、八月）
・講義「文書館における公文書の選別について」（埼玉県立文書館文書史料取扱講習会、二月五日、浦和市）
・大学出講　北海道大学文学部　日本史特殊講義　九月～一〇月

⑥大友一雄
・論文「家普請は村中総出で」（『現代農業』増刊号、農文協、二月一日）
・論文「徳川幕府を支えた四大政策」（『徳川十五代』、実業之日本社、一二月一七日）
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）
・共編『板橋区史』資料編三　近世（板橋区、三月三一日）
・共編『里正日誌』第十巻（東大和市教育委員会発行、三月三一日）
・共編『都幾川村史資料』近世編大椚地区Ⅱ（都幾川村役場、三月二五日）
・講演「生類憐れみ政策と鷹狩」（千駄ヶ谷社会教育会館、七月一一日）
・講演「将軍の鷹狩と鳥商い」（品川区歴史資料館、一一月二日）
・講演「徳川将軍家の祖先祭祀と江戸の町」（巣鴨社会教育会館、一一月二一日）
・大学出講　上智大学文学部、同大学大学院　日本近世の国家と社会
・大学出講　国学院大学文学部　史料論

⑦渡辺浩一
・報告「近世都市における史料群の価値体系と史料管理―播州三木町を事例として―」（歴史学研究会近世史部会例会、東京大学史料編纂所、六月四日）
・講演「古文書の整理と保存」（栃木県市町村文書担当者講習会、栃木県立文書館、八月三〇日）
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、一九九六年三月）
・大学出講　一橋大学社会部　日本社会史総論

⑧丑木幸男
・目録『武蔵国大里郡大麻生村古沢家文書（その二）』（史料館収蔵史料目録第六二集、史料館、三月二九日）
・編集『上野国寺院明細帳』第四巻（群馬県文化事業振興会、二月二〇日）
・編集『上野国寺院明細帳』第五巻（群馬県文化事業振興会、六月二五日）
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、一九九六年三月）
・紹介「群馬県地方史研究の動向」（『信濃』第五五八号、信濃史学会　六月一日）
・講義「公文書等の整理と目録作成」（国立公文書館実務担当者会議、二月二二日）
・講義「アーキビストとして学ぶべきもの」（全史料協研修会、秋田市文化会館、一〇月二三日）
・報告「戸長役場史料論」（首都圏形成史研究会、北区北トピア、一一月三〇日）
・大学出講　お茶の水女子大学文教育学部　史料管理学

⑨安藤正人
・共編著『記録史料の管理と文書館』（序章「本書の課題」・第一一章「欧米記録史料学における記録評価選別論の展開」執筆、北海道大学図書刊行会、一九九六年二月）
・分担執筆『日本の文書館運動―全史料協の二十年』（第一章第五節2「アーキビスト養成の問題」執筆、全史料協編・岩田書院発行、一九九六年三月）
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、一九九六年三月）
・共同執筆「民間所蔵史料の保存・管理に関する研究―山梨県大月市星野家文書を素材にして―」（『史料館研究紀要』第二七号、三月）
・評論「日本の文書館と記録史料の管理・利用の現状」（『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第八号、一九九六年一二月）
・講義「アーキビストとアーカイブズ」

（企業史料協議会・法政大学共催「ビジネス・アーキビスト講座」、一九九六年五月七日、法政大学、東京）
・講演「海外の文書館とその活動」（企業史料協議会総会、一九九六年五月一三日、アルカデイア市ヶ谷、東京）
・報告「近現代史史料の保存・公開システムをどう作るか―「情報公開法」問題によせて―」（現代史サマーセミナー、一九九六年七月二日、ホテルやまと、長野県軽井沢町）
・講演「草の根文書館を作ろう」（歴史文化講演会、一九九六年八月一七日、愛媛県三間町）
・報告「日本の文書館と記録史料の管理・利用の現状」（吉林省档案館・満鉄資料館訪日代表団との交流会、一九九六年一一月九日アジア経済研究所、東京）
・大学出講
学習院大学総合講座「記録保存と現代」（分担講義、一九九六年四月～五月）
・研究助成
日本学術振興会東南アジア諸国派遣事業による研究「第二次世界大戦時及び戦後の日本植民地及び占領地における記録史料の取り扱いについて」

⑩青木　睦
・分担執筆『史料館収蔵史料総覧』（史料館編、名著出版、三月）
・共同執筆「民間所蔵史料の保存・管理に関する研究―山梨県大月市星野家文書を素材にして―」（『史料館研究紀要』第二七号、三月）
・分担執筆「歴史的記録遺産の救助プロセス―啐啄同時の難しさ―」（『全国美術館会議阪神大震災美術館・博物館総合調査報告Ⅱ』（全国美術館会議、五月）「阪神大震災と美術館をめぐって」シンポジウム報告書）
・分担執筆『日本の文書館運動―全史料協の二十年』（Ⅰ第一章第五節「史料保存・修復の取り組み」、全史料協編、岩田書院刊、三月）
・書評『古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究―平成六年度科研費補助金研究成果報告』（『記録と史料』第七号、一〇月）
・報告・報告要旨「特定研究収蔵史料の修復・復元に関する基礎的研究」（特定研究研究会、二月二〇日：『特定研究収蔵史料の修復・復元に関する基礎的研究報告書』、三月）
・講演「錦絵にみる江戸・東京のくらし」（品川区委託学級、一月二四日）
・報告「現代修復事情―イギリスと金沢の事例を比較して」（記録史料の保存を考える会、四月二〇日）
・報告「近世日本における史料保存管理の在り方」（日本図書館協会資料保存委員会、五月一七日）
・講義「資料の保存技術―紙の資料（保存手当て）」（法政大学・企業史料協議会共催ビジネス・アーキビスト養成講座、七月一六日）
・講義「公文書・古文書等の保存方法」（千葉県史料保存活用連絡協議会、九月二六日）
・講義「史料の保存管理」（日本銀行金融研究所、一〇月一日）
・講演「記録史料の保存と危機管理」（千葉県史料保存活用連絡協議会、一一月一二日）
・報告「現代修復事情」（第三回記録史料の保存修復に関する研究集会、一一月三〇日）
・大学出講
学習院大学総合講座「記録保存と現代」（分担講義、一二月）

⑪森本祥子
・報告「小規模自治体の文書館―複合施設の可能性」（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会月例会、二月一七日）
・論文「アーキビストの専門性―普及活動の視点から」（『史料館研究紀要』、二七号、三月）

○人事異動
・退任（平成八年三月三〇日付）
事務補佐員　大貫　真理
事務補佐員　高橋　真理
・新任（平成八年四月一日付）
事務補佐員　河西秀早子
同　羽鳥　陽子
同　大崎　博仁

平成九年度史料管理学研修会（通算四三回）の開催予定
長期研修課程
国文学研究資料館　東京会場
前期　九年七月一日～七月二十九日
後期　九年九月一日～九月二十六日
短期研修課程
沖縄県公文書館
九年十月十日～十一月二十一日
（前・後期、短期とも最後の一週間はレポートの作成にあてる）

◎閲覧業務停止のお知らせ
蔵書点検の実施にともない、左記の期間閲覧業務を停止します。
閲覧業務再開　四月二三日(水)～五月二日(金)
五月六日(火)

史料館報　第六六号
平成九年（一九九七）三月三十一日
編集兼　国文学研究資料館
発行者　史　料　館
〒一四一　東京都品川区豊町一ノ一六ノ一〇
電話〇三(三七八五)七一三一(代)
FAX〇三(三七八五)四四五六
印刷所　東京都台東区寿三ノ一四ノ五
有限会社　スミダ
電話〇三(三八四二)七三三三